

第6章 ヨーロッパ世界の形成と展開 1. 西ヨーロッパ世界の形成

a, ゲルマン民族の大移動

アルプス以北のヨーロッパには前6世紀ごろから[1 **ケルト**]人が広がっていたが、バルト海沿岸を居住地とし[2 **牧畜**]や[3 **農耕**]などに従事した[4 **ゲルマン**]人に圧迫されていった。ゲルマン人たちはしだいに居住地を拡大、一部は平和的にローマ帝国内へ移住し、[5 **傭兵**]となったり[6 **コロヌス**]になるものも多かった。彼らの生活はカエサルの[7 **ガリア戦記**]やタキトゥスの[8 **ゲルマニア**]の記述から知ることができる。

ゲルマン民族の大移動…4世紀ごろ、[9 **アジア**]系遊牧民の[10 **フン**]族の侵入がきっかけ
 [11 **375**]年 西ゴート族大移動を開始→翌年、[12 **ローマ帝国**]領に侵入
 →[13 **395**]年 ローマ帝国分裂
 →[14 **476**]年西ローマ帝国ゲルマン人傭兵隊長[15 **オドアケル**]に滅ぼされる

しかし4世紀になるとかれらは東方から移動してきたアジア系の[16 **フン**]族に押される形で[17 **375**]年大移動を開始、西ヨーロッパは大混乱に陥った。そして395年[18 **ローマ**]帝国は東西に分裂、西ローマ帝国は476年ゲルマン人傭兵隊長[19 **オドアケル**]に滅ぼされた。
 他方、ゲルマン人の移動の被害が小さかった[20 **東ローマ**]帝国は、1453年までギリシア=ローマの伝統を引き継いでいくことになる。

①ゲルマン民族の大移動

ア)フン人(アジア系)…

東方より侵入→[21 **東ゴート**]人を屈服させ、[22 **西ゴート**]人を追う

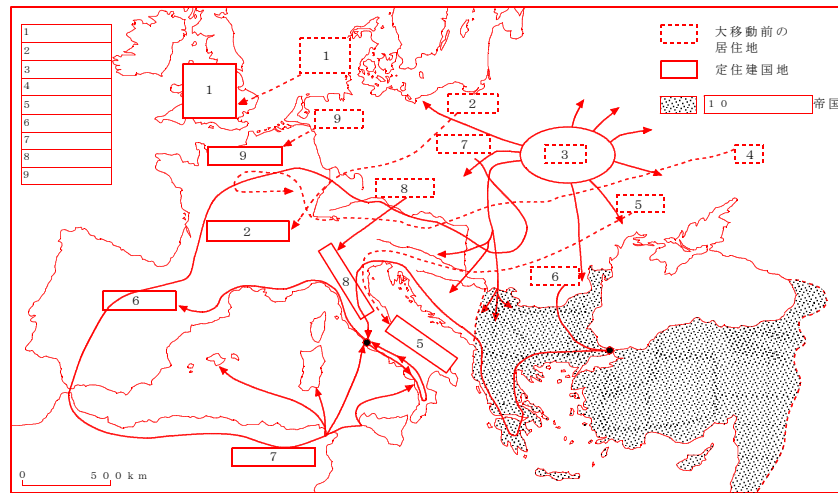
→5世紀[23 **アッティラ**]大王のもとで大帝国に
 →[24 **カタラウヌム**]の戦いで敗れ、のち崩壊

イ)[25 **西ゴート**]人
 [26 **376**]年ローマ帝国領侵入=ゲルマン移動開始
 →ローマ占領(410)

→5世紀初 [27 **イベリア**]半島に建国
 →8世紀初、イスラム勢力に滅ぼされる

ウ)ヴァンダル人…ガリア(現フランス)・イベリア半島を経て[28 **北アフリカ**]のカルタゴの地に建国
 エ)ブルグンド人…ガリア(フランス)東南部へ侵入(ブルゴーニュ地方)

オ)[29 **フランク**]人……ゲルマニア(ドイツ)を中心にガリア(フランス)西部に拡大
 カ)[[30 **アングロ**]=[31 **サクソン**]人…ドイツ北西部→[32 **ブリタニア**](イングランド)へわたる
 →[33 **七王国**]を建国→[34 **エグバード**]が統一をすすめる



ゲルマン人とスラヴ人の移動

キ)[35 **東ゴート**]人…5世紀末[36 **テオドリック**]大王の下でフン人支配から脱却
 →[37 **イタリア**]で建国
 ク)ランゴバルド(ロンバルド)人…6世紀中期[38 **北イタリア**](ロンバルディア平原)で建国

②先住民[39 **ケルト**]人→[40 **アイルランド**][41 **スコットランド**]・ウェールズ・ブルターニュへ
 独自の文化を維持しつづける

b, フランク王国の発展とイスラームの侵入

ゲルマンの大移動のなか、居住地を離れずに拡大した[42 **フランク**]人は、ローマ人を支配層に組み込みつつ発展していった。そして全フランク人を統一、発展の基礎をつくったのが[43 **5**]世紀後期の王[44 **クローヴィス**]である。([45 **メロヴィング**]朝)かれは[46 **アタナシウス**]派キリスト教に改宗することで[47 **ローマ**]人の支持を確実なものにするともに[48 **ローマ**]教会との関係も深めた。
 8世紀、[49 **イベリア**]半島方面から侵入してきたイスラム軍を[50 **トゥール=ポワティエ間**]の戦いで破ったのが宮宰の[51 **カール=マルテル**]であった。そしてその子[52 **ピピン**]はメロヴィング朝の王位を奪い[53 **カロリング**]朝を開いた。この過程で彼はローマ教会の支持を得たことからかれはその代償として土地を寄進した。これが[54 **教皇領**]の始まりである。このようにローマ=カトリック教会とゲルマン(フランク)との結合はいっそう強化されてきた。

①[55 **5**]世紀、メロヴィング家の[56 **クローヴィス**]が[57 **フランク**]王国をたてる
481
 [58 **アタナシウス**]派キリスト教に改宗 = 59 ローマ人貴族。ローマ教会との関係を強める
 (正統派)

②6世紀、他のゲルマン諸族を征服、ブルグンドなどを滅ぼし、全[60 **ガリア**]を統一

③8世紀には衰退、[61 **宮宰**](王家の行政・財政の長官)に実権がうつる。

④宮宰[62 **カール=マルテル**](カロリング家)、イベリア半島から侵入したイスラム軍([63 **ウマイヤ**]朝)を[64 **トゥール=ポワティエ間**]の戦いで破る。=西方キリスト教世界を守る

⑤カール=マルテルの子[65 **ピピン**]、王位を奪い[66 **カロリング**]朝を開く

←[67 **ローマ教会**]の支持を得る、代償として土地を寄進([68 **教皇領**])
 →ローマ=カトリック教会とゲルマン(フランク)との結合強化